

令和5年度事業計画

I 事業計画の概要

令和5年度の日本経済は、資源高や海外経済減速による下押し圧力を受けるものの、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響が和らぐもとで、緩やかな回復が続くものと見込まれている。

一方、私立大学の令和4年度入学定員充足率は、前年の99.8%から1.0ポイント上昇して100.8%と改善したが、未充足校は前年度に比べて7校増加して284校で、全体に占める割合は1.1ポイント上昇して47.5%と過去最多となるなど、私立大学を取り巻く経営環境は一層厳しい状況を迎える。また、昨年5月には政府の「教育未来創造会議」において、「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」と題する第一次提言が取り纏められた。デジタルや脱炭素といった成長分野の人材育成やSTEAM教育の強化による文理横断教育の推進等を主な内容とするものである。こうした環境の変化、厳しい社会情勢を踏まえ、社会のニーズを的確に捉えた不断の改革により、将来ビジョンに掲げる「東北地方に位置する最も魅力ある工科系私立大学」を実現していかなければならない。

大学においては、ウィズコロナ・アフターコロナにおける志願動向を注視しながら、今年度も学生の安定的確保を最優先課題として全学を挙げて取り組む。特に、ブランディングプロジェクトを本格始動させ、新たなブランドビジョンを基に一貫した広報活動を展開することにより、本学の新しいブランドを学内外に広く発信し、学生募集活動の推進と本学の教育・研究の認知度向上を図ることとする。

教学面では、AEGGポリシーを起点とする内部質保証の実質化を図るため、令和4年度に策定した自己点検評価指標(KPI)に基づく点検・評価を推進する。また、教学IRデータベースの拡充により教学データの活用促進並びにデータに基づく内部質保証システムの充実を図り、学修成果の可視化を推進する。また、新教務関連システムの学生指導記録(STAC(Student Ability Catalog))を活用し、多様な問題を抱える学生情報を学内で共有するとともに連携を強化し、休退学抑制の強化を図る。更に、令和4年度に文部科学省の認定を受けた「東北工業大学 AI教育プログラム(リテラシーレベル)」によるDX教育や、令和5年度開設の「東北工業大学 環境・サステナビリティ教育プログラム」によるGX教育等の推進により新たな教育・人材育成に取り組む。

高校においては、WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業に取り組み、グローバル教育を再構築するとともに、令和5年度入学生から授業内をオールイングリッシュとする学校設定科目や東北工業大学との連携による「先取り履修制度」等により、特色ある学校づくりを目指し、志願者・入学者の増を図ることとする。また、普通科特別進学コース内のコース統合を行い、再スタートすることとする。さらに、令和4年度に導入した校務支援システム「BLEND」の機能拡張によりDXを推進するとともに、「アクティブ・ラーナー」による校内研修等を通して教職員の資質向上にも取り組む。

今後の教育研究環境を整備していくためには財務基盤の確立が不可欠である。今年度も主たる収入財源である学生生徒等納付金収入と補助金収入を確保するとともに、厳正な予算執行により内部留保の充実に努めることとする。また、八木山キャンパス整備基本計画に基づき、新棟2期建設へと計画を進めるため、ローリング計画に伴う既存建物の大規模改修を実行する。なお、中期計画「TOHTECH2023」の最終年度であり、各種目標の達成に努めるとともに、次期中期計画の策定に取り組むこととする。

II 事業計画の内容

1. 大学部門

(1) 教育

- ア. 学生受け入れ
- イ. 教育の質保証
- ウ. 教育 DX を利活用した学修支援の推進
- エ. 休退学抑制の強化
- オ. 新たな教育・人材育成
- カ. 就職支援の強化
- キ. 課外活動の推進

(2) 研究

- ア. 東北 SDGs 研究実践拠点形成事業の推進
- イ. プロジェクト研究所の推進
- ウ. 大学院の強化

(3) 地域社会貢献

- ア. 地域未来構築事業
- イ. 新たなサテライトキャンパス所在地の検討
- ウ. 地域活性化教育の推進

(4) ガバナンス

- ア. 教員業績の点検評価の推進
- イ. FD・SD 活動の推進

(5) 施設設備

- ア. 八木山キャンパス整備基本構想の推進
- イ. 基盤ネットワークシステムの更改
- ウ. 統合認証システムの更改
- エ. 教育装置及び教育基盤設備の更改
- オ. Web 出願システムの機能拡充

(6) 連携・交流

- ア. 工科系大学交流活動の推進
- イ. 高大接続の推進
- ウ. 国際交流活動
- エ. 後援会・同窓会との連携強化

(7) 東北工業大学創立 60 周年記念事業

2. 高校部門

(1) 教育活動の充実

- ア. グランドデザインに則した教育活動の推進
- イ. WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業

(2) 学習支援体制の充実

- ア. 学習支援センターの充実
- イ. 教職員の資質向上

(3) 学校運営

- ア. 特別進学コースの統合と広報
- イ. Web サイトのリニューアル
- ウ. 校務支援システムの機能拡張
- エ. 東北工業大学との高大連携強化
- オ. 教職員研修の体系化
- カ. コロナ禍後の新しい学校生活様式の検討

3. 法人部門

- (1) 財務基盤の強化
 - ア. 収入の確保
 - イ. 支出の抑制
- (2) 学生への経済的支援制度の継続実施
- (3) DX の推進
- (4) 施設・設備の改修
- (5) 八木山キャンパス整備基本計画の推進
- (6) 内部統制システムの整備
- (7) ダイバーシティの推進
- (8) 寄付金募集事業計画の推進
- (9) 次期中期計画の策定